

## E-4 中国語の時間認識について－「左」「右」を伴った新たな時間表現を中心に－

鄭新爽

### 1 はじめに

一般に、人間は時間という抽象的な概念をより具体的に経験できる空間概念を介して理解されている（国広1995，篠原2006，2008，岩崎2010など）。そして、空間概念を時間概念に転用する際、三つの軸（前後軸・左右軸・上下軸）が用いられることも多くの実験で確かめられている（Fuhrman et al.2011など）。その一方で、前後軸・上下軸と左右軸の間には興味深い差異があることも指摘されている。前後や上下を表す言語表現をメタファー的に用いて時間概念を表す言語は多いが、左右を表す言語表現を用いた時間表現は存在しないというのである（Radden 2011）<sup>1</sup>。しかしながら、興味深いことに中国語には(1a)に示すように、「左・右」を用いた時間表現がある。そして、この時間表現には「左」が「過去」を、「右」が「未来」を表すという非対称的特徴があり、この関係を逆にすることは(1b)に示すように不可能である。

(1) a. 左手是过往，右手是未来，中间是现在...（《人民日报》2015）

（左手は過ぎ去った過去，右手は未来，真ん中は現在で...）

b. \* 左手是未来，右手是过去。（\*左手は未来で，右手は過去である...）

### 2 問題提起

たしかに、Radden (2011)が主張しているように、多くの言語では時間を認識する際に左右軸を使った表現を使用しない<sup>2</sup>。そしてこの事実は、メタファー論を用いて次のように説明できる。時間は一方向的な性質つまり非対称的な性質を持っているため、非対称的な空間概念である「前後」や「上下」と整合性を持つ。そのため、「前後上下」は時間領域にマッピングすることが可能である。一方、対称的な空間概念である「左右」は時間とは整合性を持たない。そのため、「左右」は時間領域にマッピングできない。つまり、「左右」の場合、どちらが過去にマッピングし、どちらが未来にマッピングするかが不確定であるため、前後軸は時間領域には用いられないのである。それでは、なぜ、中国語では(1a)のような新たな時間表現が存在しているであろうか<sup>3</sup>。そして、なぜ、(1a)のような

<sup>1</sup> もちろん、様々な言語において、話者が時間認識の差異に左右軸を用いていること自体は実験で確かめられている（佐藤 2014, Fuhrman and Boroditsky 2007, Santiago et al.2007, Ouellet, Santiago, Israeli, and Gabay 2009, 2010 など）。気をつけなければいけないのは、Radden (2011)の指摘は左右軸の認識が時間表現に反映されないということである。また、この論文における「時間表現」の定義は広く、通常の語彙レベル（「前天」（前日）など）だけでなく、文レベルも同様に時間表現として扱われている。

<sup>2</sup> 実は、Radden (2011)においても中国語に「9時左右」のような左右軸に関する時間表現があることは指摘されている。ただし、Radden (2011)はこの「左右」は「～くらい」という意味を表す分離できない一語であるとして考察の対象から除外している。

<sup>3</sup> 「左右」を用いた時間表現が新たな表現であるというのは、「前後・上下」に比べて、普及時期が遅いからである。

例では、本来、対称的な性質をもつ「左右」が「左」が過去のみを、「右」が未来のみを表す、つまり非対称的な性質を持つようになり、時間領域にマッピングされるようになったのであろうか。この疑問に答えるため、本研究では、認知言語学の知見を援用し、このような時間表現の背後にある認知プロセスを明らかにする。

### 3 先行研究

中国語話者が時間認識をする際に左右軸を用いていることは、Fuhrman et al. (2011), Santiago et al. (2007) などによって既に実験で確認されている。ただし、注意しなければならないのは、これらの実験で検証されているのは概念レベルの時間認識であって、表現において「左右」が現れるかどうかは検討とされていない。

また、時間認識に関しては、時間に関する概念メタファーだけでなく、カレンダーや書字体系などの慣習化された文化のパターンに起因するという主張もなされている (Casasanto and Jasmin 2012, Cienki 1998 など)。実際、この仮説を検証するために書字方向の異なる言語を比較した実験研究も多い (Fuhrman and Boroditsky 2007, Ouellet et al. 2009, Radden 2011 など)。例えば、Fuhrman and Boroditsky (2007)は英語とヘブライ語を対象として書字体系の方向と認識される時間の方向との相関関係について実験を行い、書字方向と時間認識の方向は一致することを確認している<sup>4</sup>。つまり、左から右に文字を書き進めていく英語話者は左を過去、右を未来と認識し、右から左に文字を書き進めていくヘブライ語話者は右を過去、左を未来と認識するのである。このような実験結果から、書字体系やカレンダーなどの文化的要因も時間の認識に影響を与えると結論づけられる。

もちろん、これらの研究ですべての疑問が解消されたわけではない。なぜなら、Radden (2011)が指摘する、多くの言語では「右」や「左」を表す言語表現を使って時間を表せないという事実になんの説明も与えられないからである。左右軸を用いて時間を認識しているとしたら、「上下・前後」と同じように「左右」も時間表現に現れるはずなのである。そして、この事実の説明を与えるためには、先ほども述べた概念メタファーにかかる制約、つまり、非対称性を持つ時間領域にマッピングできるのは非対称性を持つ空間概念に限られるという制約を考慮する必要がある。上下・前後は非対称性を持つ空間概念であるために時間領域にマッピングできるが、左右は対称性を持つ空間概念であるため時間領域にマッピングできないのである。

そこで本研究が取り上げる問題は、時間概念と左右軸は(非)対称性に関して整合性がないにもかかわらず、中国語ではなぜ(1a)のような「左右」の時間表現が可能になったのかということである。この問いに答えるため、本研究では、Langacker (2008)および町田(2012)の事態認識のモデルを援用して書字体系に起因する左右の時間認識のあり方、そしてその認識が言語表現に定着するまでの認知プロセスを明らかにする。

<sup>4</sup> 中国語は英語と同じく左から右に文字を書き進めていくので、左が過去、右が未来を表すことになる。

#### 4 提案

本研究では、先行研究が主張している書字体系は左右の時間認識に影響をもたらすという主張を受け入れた上で、先行研究では考察されていない書字体系から言語表現レベルまでの認知プロセスの詳細な分析する。

まず、(2)を見ていただきたい<sup>5</sup>。中国語の新しい時間表現としての「左」「右」は大きく2つのタイプに分けられる。

(2) a. 我左手握着昨天的回忆，右手牵着明天的梦想，可是我的眼中心里只有现在的你...

(《句子迷-名人名句》 <http://www.juzimi.com/ju/40900>)

(私の左手が昨日の記憶を握っていて、右手が明日の夢をつないでいるが...)

b. 大提琴的声音就像一条河，左岸是我无法忘却的回忆，右岸是我值得紧握的璀璨年华，心中流淌的... (郭敬明《左手倒影，右手年华》)

(チェロの音が川のように、左側は忘れられない記憶であり、右側は輝かしい未来を握るに値することである。心の中に...)

(2a)は「左手」が過去を、「右手」が未来を表すタイプで身体の一部で時間を表している。一方、(2b)は身体の一部ではなく「左+辺・岸(側)」、「右+辺・岸(側)」という手の隣接空間、つまり「左側」「右側」でそれぞれ過去と未来を表すタイプである。留意すべき点は、(1)でも述べたように、「左手」「左側」が過去を表し、「右手」「右側」が未来を表すのは任意ではないということである。つまり、本来、対称的であるはずの左右に非対称性が生じているということである。

以下では、(2)のような表現が可能になる認知プロセスを4つの認知図式を用いて考察する。まず、図1は、中国語話者が実際の生活の中で文字を読んだりカレンダーを見たりする際に生じている認知プロセスを図示したものである。一番外側のボックスは最大スコープMSを表し、そのすぐ内側の破線のボックスは主観的状况SSを表し、一番内側の実線ボックスはオンステージ領域OSを表している。町田(2012)によると、このSSは認知主体Cからの見えの世界を表す領域であり、OSは言語化される領域である。認知主体Cからの点線矢印はメンタル・スキニング(mental scanning)を表すが、このメンタル・スキニングが行われる処理時間(processing time)はSS内の矢印Tで表されている。OS内の丸い破線はカレンダーや文字列などの認識の対象となる要素(=認識の客体)である。これらの要素をメンタル・スキニングを介して順番に把握することによって、カレンダーや文字列などから方向のスキーマが抽出される。この方向のスキーマはOS内の破線の矢印で表されている。また、この方向のスキーマは、認知主体Cがカレンダーや文字列などに触れる際に自身の身体の一部である左手と右手に対応して把握されるため事態内視点(c.f. 町田 2012)

<sup>5</sup> 本研究の時間表現は新聞ニュース・小説・本・教科書・一部のインターネットなどの幅の広い範囲で取られたデータである。

をとっていると考えられる。左手と右手の隣にある円はそれぞれ左手と右手の隣接空間を表す。

図1のような文字列などを認識する際に生じる認知プロセスにおける処理時間  $T$  は、図2に示すように客体化されると、OS 上の把握時間(conceived time:  $t$ )になる。その際、方向のスキーマ(破線矢印)と把握時間  $t$  の方向性は一致する。図2において、方向のスキーマの2つの黒点と把握時間上の2つの黒点がそれぞれ点線で結ばれているのはこのことを表している。これにより、左に行くほど過去を表し、右に行くほど未来を表すという左右軸と時間の相関関係が生じるのである。これは、プライマリー・メタファーの MORE IS UP が「量が増えれば増えるほど、水準が高くなる」という共起関係を経験的基盤としているのと基本的に同じ現象であるといえる。つまり、文字列を読んだり書いたりする際、認知主体の左側が処理時間における処理済みの領域に一致し、右側が処理時間におけるこれから処理を開始する領域に一致するという経験的基盤である。ただし、この段階ではまだ「左手・右手」「左側・右側」は客体化されておらず、言語化されていない。多くの言語はこの段階で留まっているので、左右軸を用いて時間を認識しているにもかかわらず、「左右」を表す言語表現を用いて時間を表すことができない。

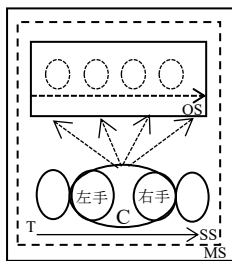


図1

書字体系

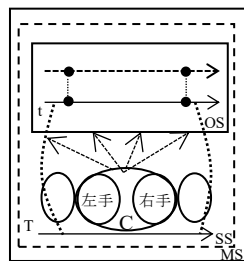


図2

処理時間の客体化

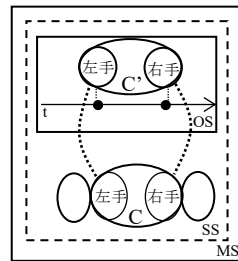


図3

左手・右手の客体化

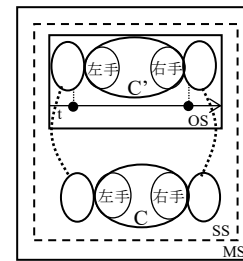


図4

手の隣接空間の客体化

図2のように、いったん認知主体の処理時間  $T$  が客体化されると、左右軸が持っている対称性が解消され、左右軸に非対称性が生じる。この非対称性の獲得により、図3に示すように認知主体  $C$  の身体の一部である左手と右手が客体化された場合、その左手と右手は把握時間  $t$  と対応関係を結ぶことができるようになる。そのため、客体化された左手と右手がそれぞれ過去と未来を表すようになる。ただし、図3はまだ認識のレベルを図示したに過ぎず、OS 内の左手と右手はプロファイルを受けず言語化されていない。最後の図4では、両手の隣接空間も客体化を受け OS に上がっている。そして、客体化された隣接空間がそれぞれ過去と未来に対応している。

このような認知プロセスに基づいた言語表現が図5と図6に示されている。図5は(3a)のような、「左手」と「右手」で過去と未来を喩える表現の図式化である。図5左図は手の客体化を図示した図3と同じ概念構造を持っているが、手がプロファイルされ、言語化されている点で異なっている。一方、図5右図は「過去」および「未来」を表す言語表現のプロファイルを図示したものである。したがって、(3a)の「左手が過去」「右手が未来」という表現で表されているのは、「左手」と「過去」、「右手」と「未来」をつなぐ図5のようなマッピングの関係である。同様に、(3b)で表現され

ているのは、「左側」と「記憶」<sup>6</sup>、「右側」と「未来」をつなぐマッピング関係であり、図6のように図示される。

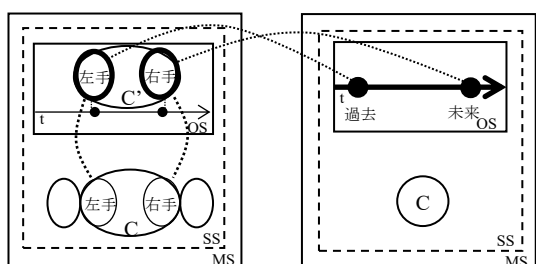


図5

「左手が過去」「右手が未来」の概念構造

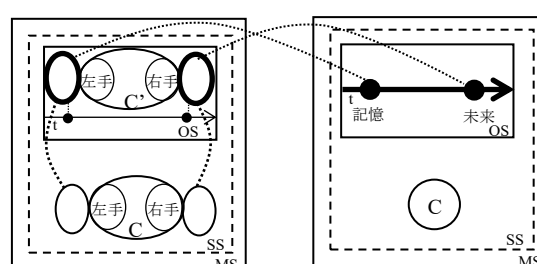


図6

「左側が記憶」「右側が未来」の概念構造

- (3) a. 左手是过去，右手是未来，合在一起... (《凤岗论坛》)  
 (左手は過去で，右手は未来であり，両手を合わせると...)
- b. 我们站在一扇门的中间，门的左边是回忆，右边是未来... (《80后的集体回忆》)  
 (私たちは一つのドアの真ん中で立っていて，ドアの左側は記憶で，右側は未来である...)

## 5 まとめ

本研究では，一般に存在しないとされていた左右軸を用いた時間表現が中国語に存在することを指摘し，そのような時間表現が成立するに至った認知プロセスを明らかにした。中国語の時間認識は書字体系などを経験的な基盤としてもち，これをもとに左から右へ方向のスキーマが抽出される。この方向のスキーマはSSにおける常に処理時間と共起するため，処理時間が客体化され把握時間となった後にもこの把握時間と方向のスキーマは対応関係を持つことになる。これは，当初，概念のレベルで見られるだけであるが，その後，表現のレベルでも生じるようになり，「左」で過去，「右」で未来を表すようになるのである。

## 6 参考文献

- Boroditsky, L. (2001) Does language shape thought? English and Mandarin speakers' conceptions of Time. *Cognitive Psychology*, 43-1: 1-22.
- Casasanto, D. (2016) Temporal language and temporal thinking may not go hand in hand. In B. Lewandowska-Tomaszczyk (ed.), *Conceptualizations of time*, 169-186. Amsterdam: John Benjamins.
- Casasanto, D. & Jasmin, K. (2012) The hands of time: Temporal gestures in English speakers. *Cognitive Linguistics*, 23(4), 643-74.

<sup>6</sup> これらの例では，「記憶」は「過去」を指す。ここでの記憶は右手・側に対応している「未来」に対立する存在であるため，メトニミー的に過去を指すと解釈される。

- Cienki, A. 1998. Metaphoric gestures and some of their relations to verbal metaphorical expressions. In J. Koenig (ed.), *Discourse and Cognition: Bridging the Gap*, Stanford: CSLI Productions. 189–204.
- Fuhrman, O. and L. Boroditsky (2007) Mental Time-Lines Follow Writing Direction: Comparing English and Hebrew Speakers. *Proceedings of the 29<sup>th</sup> Annual Conference of the Cognitive Science Society*, 1007-11.
- Fuhrman, O., K. McCormick, E. Chen, H. Jiang, D. Su, S. Mao, and L. Boroditsky (2011) How Linguistic and Cultural Forces Shape Conceptions of Time: English and Mandarin Time in 3D. *Cognitive Science* 35-7: 1305-28.
- 岩崎真哉 (2010) 「メタファーとメトニミーの認知的分析:時間表現を中心に」 *Memoirs of the Osaka Institute of Technology*, Series B Vol.55, No.1, 1-22.
- 国広哲弥 (1997) 『理想の国語辞典』大修館書店,東京.
- Langacker, Ronald W. (2008) *Cognitive Grammar: A Basic Introduction*, Oxford University Press, Oxford. [山梨正明 (監訳) (2011) 『認知文法論序説』研究社,東京.]
- 町田章 (2012) 「主観性と見えない参加者の可視化—客体化の認知プロセス—」『日本認知言語学会論文集』12巻,246-58.
- Ouellet, M., J. Santiago, Z. Israeli, and S. Gabay (2009) Multimodal Influences of Orthographic Directionality on the “Time is Space” Conceptual Metaphor. *Proceedings of the 31<sup>st</sup> Annual Conference of the Cognitive Science Society*, 1840-1845. Austin, TX: Cognitive Science Society.
- Radden, G. (2011) Spatial time in the West and the East. In: M. Brdar, M. Omazic, V. P. Takac, T. Erdeljic Gradecak and G. Bulja (eds.), *Space and Time in Language*, 1-40. Frankfurt: Peter Lang.
- Santiago, J., J. Lupianez, E. Perez, and M. Funes (2007) Time (also) flies from left to right. *Psychonomic Bulletin & Review*, 14-3: 512-16.
- 佐藤徳 (2014) 「未来は君の右手にある—身体化された時間概念—」『心理学研究』Vol 85, No.4, 345-353.
- 施海涛 (2008) 「中西方“左”“右”语言文化对比分析」人文社会科学专辑 Vol.34, No.1, 135-37.
- 篠原和子 (2006) 「空間認知実験と時間メタファー」『認知言語学論考 NO.6』山梨正明 (編), 1-47, ひつじ書房, 東京.
- 篠原和子 (2008) 「時間メタファーにおける「さき」の用法と直示的時間解釈」『ことば・空間・身体』篠原和子・片岡邦幸 (編), 179-211, ひつじ書房, 東京.
- 王希杰 (2004) 「就左和右说语言和文化关系的复杂性」*Journal of Xinjiang University (Social Science Edition)*, Vol.32, No.2, 125-30.
- 周锦国 (2007) 「也谈“左”“右”和“左右”—兼与王希杰先生商榷\*」*Journal of Xinjiang University(Philosophy Social Science)*, Vol.35, No.2, 144-47.